

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「わけを はなそう」 教材名「わけを はなそう」

2 単元の目標

言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。

(〔知識及び技能〕(1)ア)

相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。

(A(1)イ)

自分の考えとその理由が伝わる順に話す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)	①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ)	①自分の考えとその理由が伝わる順に話す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

自分の考えとその理由が伝わる順に話す。この教材では、自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

選んだ物やしたことの絵の横に、理由になる場面の絵や短い言葉を置く。教師が理由を決めて補わず、本人の経験から話せる内容を引き出す。想定する難しさは、理由を尋ねても選んだ物の名前だけを繰り返す。評価では、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えているかを、自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。学校生活で自分が選んだことを話題にし、考え・理由の順に短く話す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○学校生活で自分が選んだことを話題にし、考え・理由の順に短く話す。聞き手が理由を言い返し、話し手が足りない説明を補う。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(A(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「なぜそう考えたのか、どの出来事を話すと伝わりますか」 【めあて】自分の考えとその理由が伝わる順に話す。 〈予想される児童の反応〉 ・選んだことだけでなく、選んだわけも伝えたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「なぜそう考えたのか、どの出来事を話すと伝わりますか」 学校生活で自分が選んだことを話題にし、考え・理由の順に短く話す。聞き手が理由を言い返し、話し手が足りない説明を補う。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・選んだことだけでなく、選んだわけも伝えたい。 ・わけを聞くと友達の考えが分かった。	選んだ物やしたことの絵の横に、理由になる場面の絵や短い言葉を置く。教師が理由を決めて補わず、本人の経験から話せる内容を引き出す。 想定する難しさ：理由を尋ねても選んだ物の名前だけを繰り返す。 評価では、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えているかを、自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・わけを聞くと友達の考えが分かった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「なぜそう考えたのか、どの出来事を話すと伝わりますか」。中央は、自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

